

6 権利擁護

(1) <入所・入院問20><在宅問29> 日常生活自立支援事業の利用状況

問. 日常生活自立支援事業(※)を利用していますか。あてはまるものに○をしてください。

※ 判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用援助などを行う事業。(具体的には、行政手続き支援や日常生活の金銭管理など)

【概要】

入所・入院している人では「利用している」が15.0%、「利用していない」が76.1%となっている。

在宅の人では「利用している」が11.0%、「利用していない」が79.5%となっている。

(図表6-1-1)

【障害者手帳種別】

知的障害(入所19.3%、在宅22.3%)・精神障害(入所20.8%)では、身体障害より「利用している」の割合が高い。(図表6-1-2)

【年代・加齢】

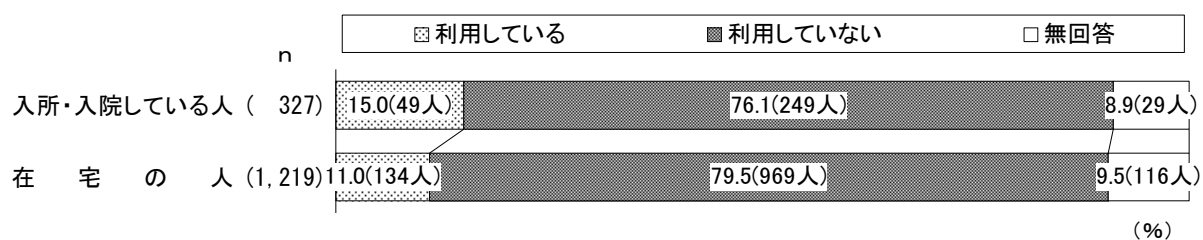
40代と比べて、60歳以上では「利用している」の割合が低くなっている。(入院10.8%、在宅6.7%)

(図表6-1-2)

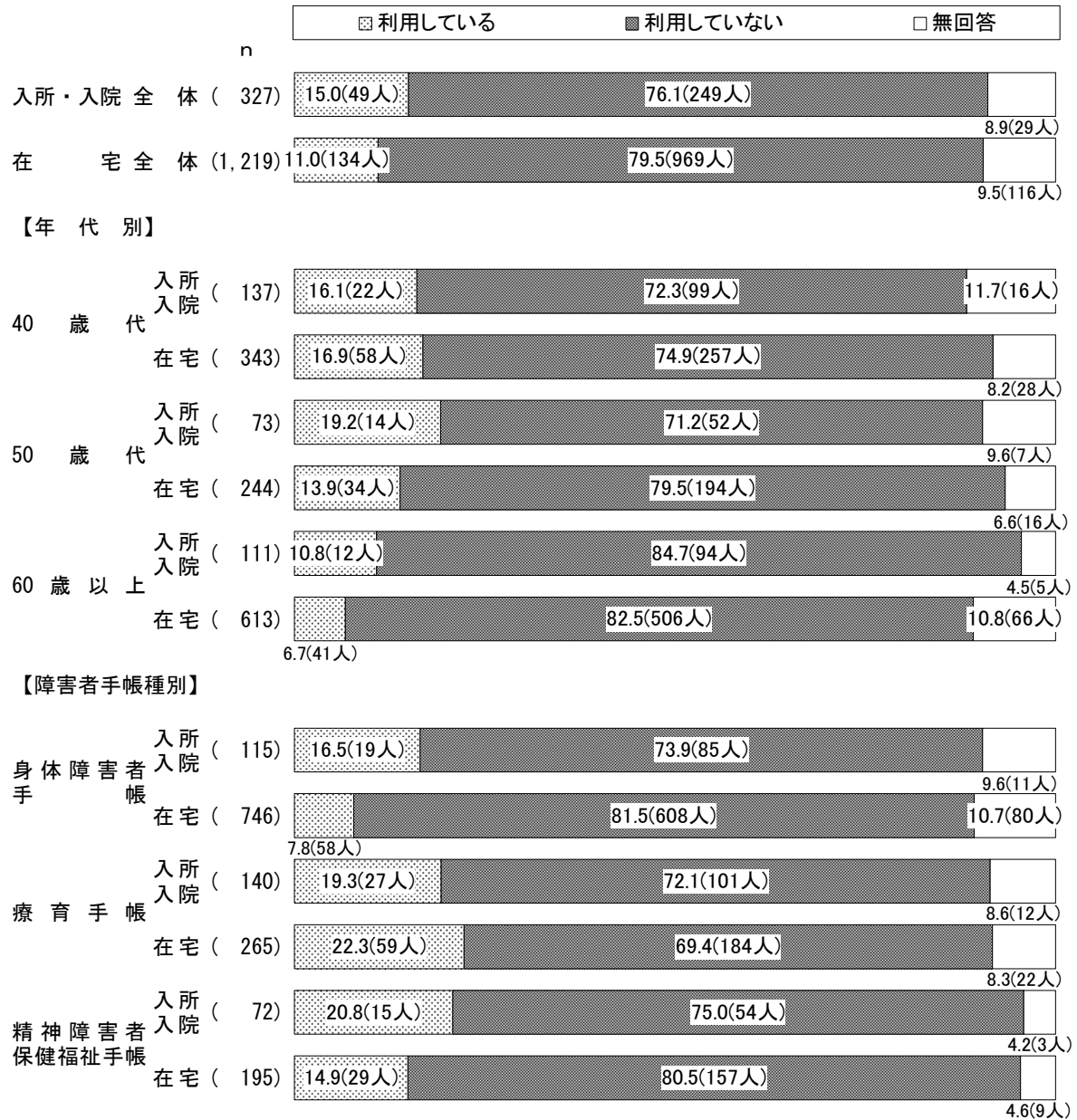
【その他】

発達障害では、在宅で「利用している」が25.6%と多くなっている。(図表6-1-2)

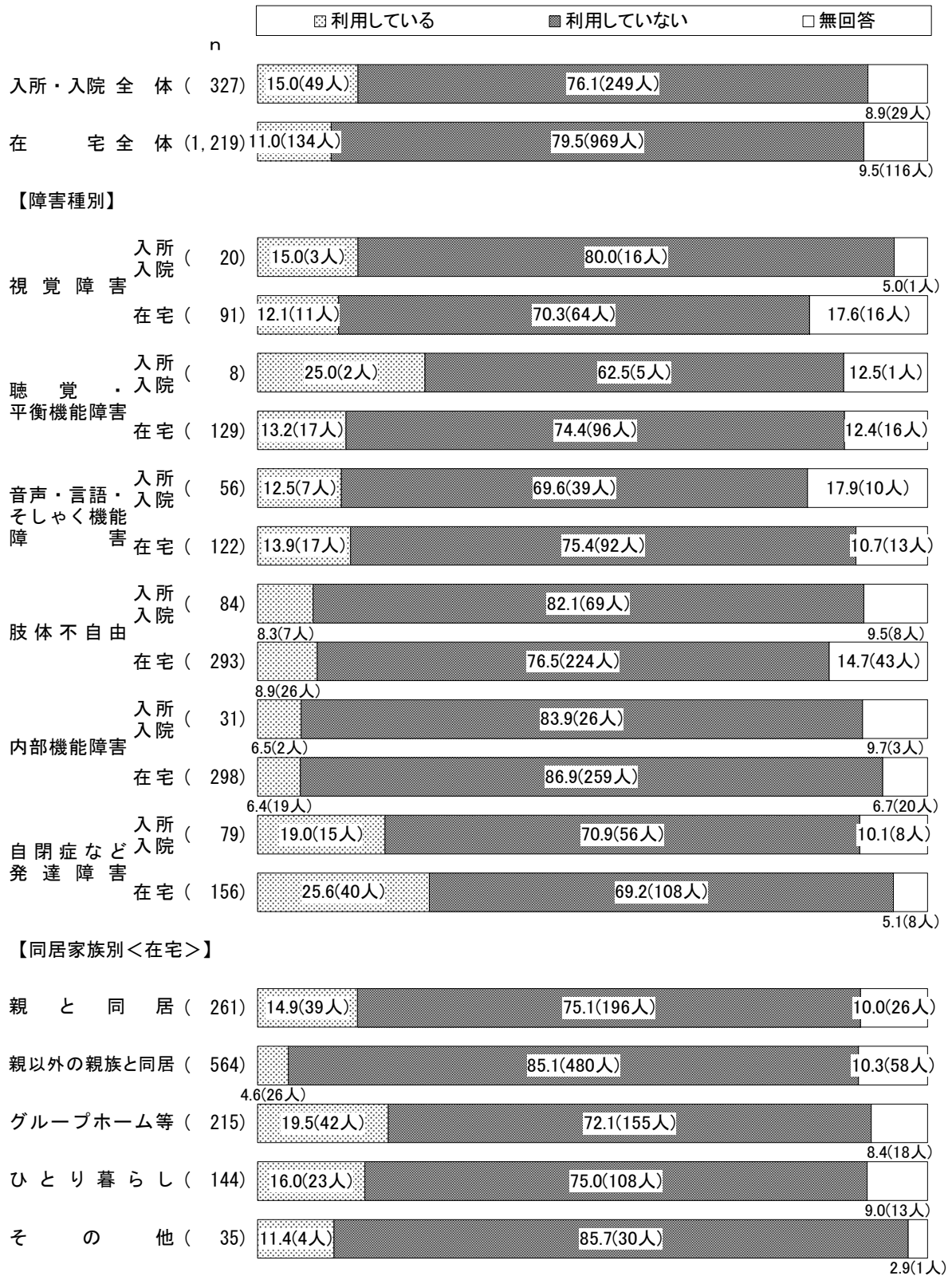
図表6-1-1



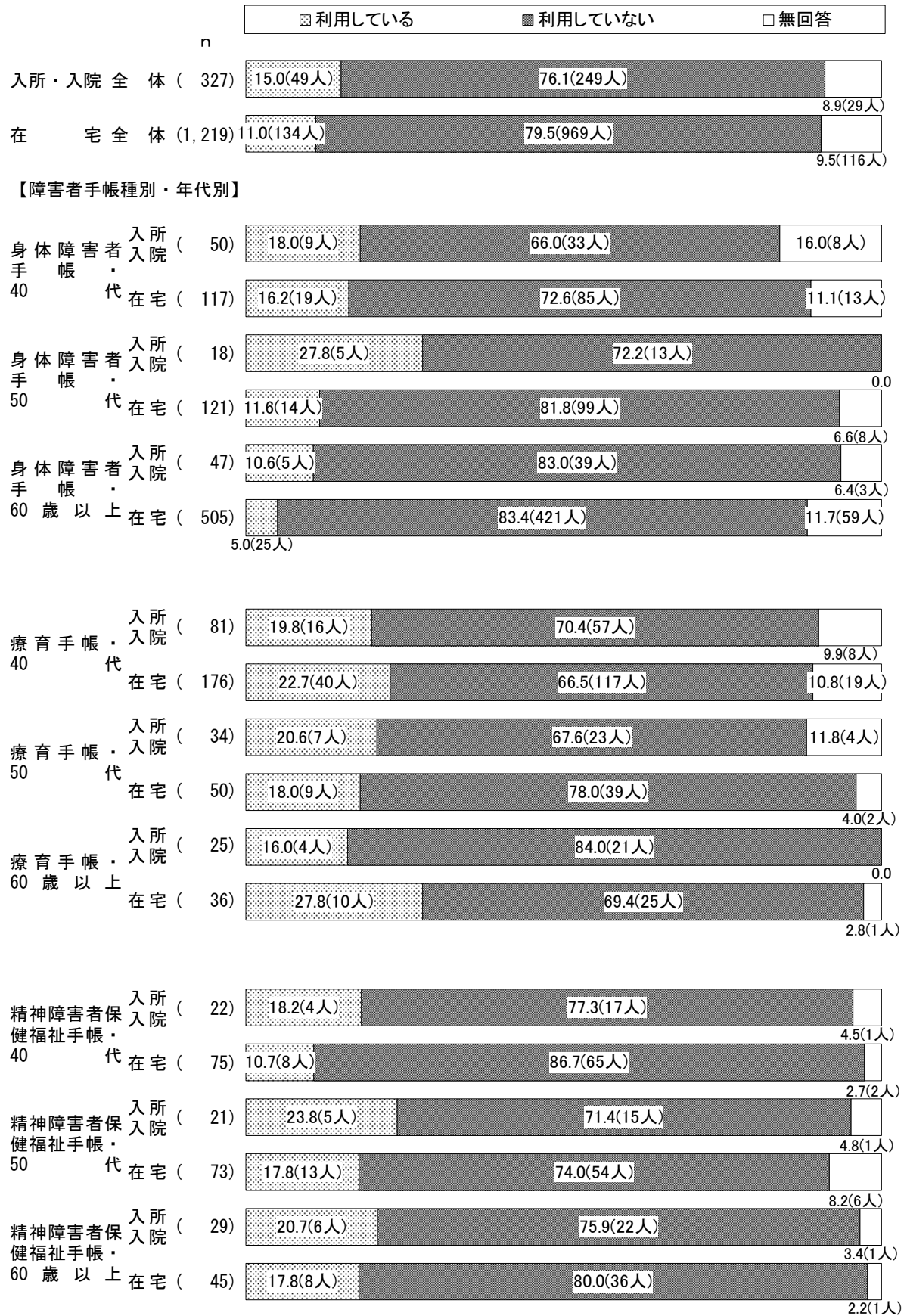
図表 6-1-2 日常生活自立支援事業の利用状況 年代別、障害者手帳種別



図表 6-1-3 日常生活自立支援事業の利用状況－障害種別、同居家族別



図表 6-1-4 日常生活自立支援事業の利用状況－障害者手帳種別・年代別



(1-1) <入所・入院問21><在宅問30>日常生活自立支援事業を利用していない理由

(日常生活自立支援事業を「利用していない」と答えた方にお聞きします。)
 問. 日常生活自立支援事業を利用していない理由は何ですか。
 あてはまるものすべてに○をしてください。

【概要】

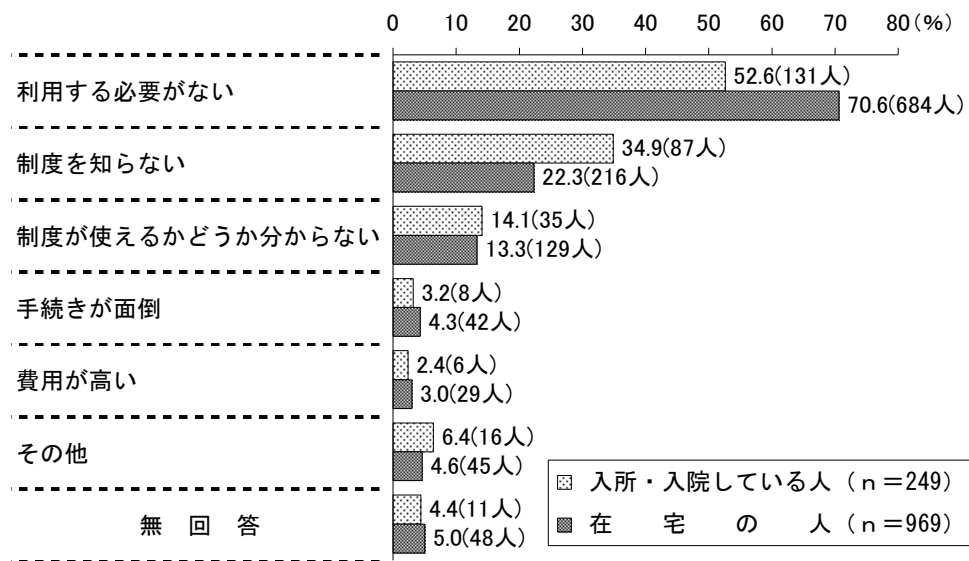
入所・入院している人では、「利用する必要がある」が52.6%で最も多く、次いで「制度を知らない」(34.9%)、「制度が使えるかどうか分からない」(14.1%)などの順となっている。

在宅の人では、「利用する必要がある」が70.6%で特に多く、次いで「制度を知らない」(22.3%)、「制度が使えるかどうか分からない」(13.3%)などの順となっている。(図表6-1-5)

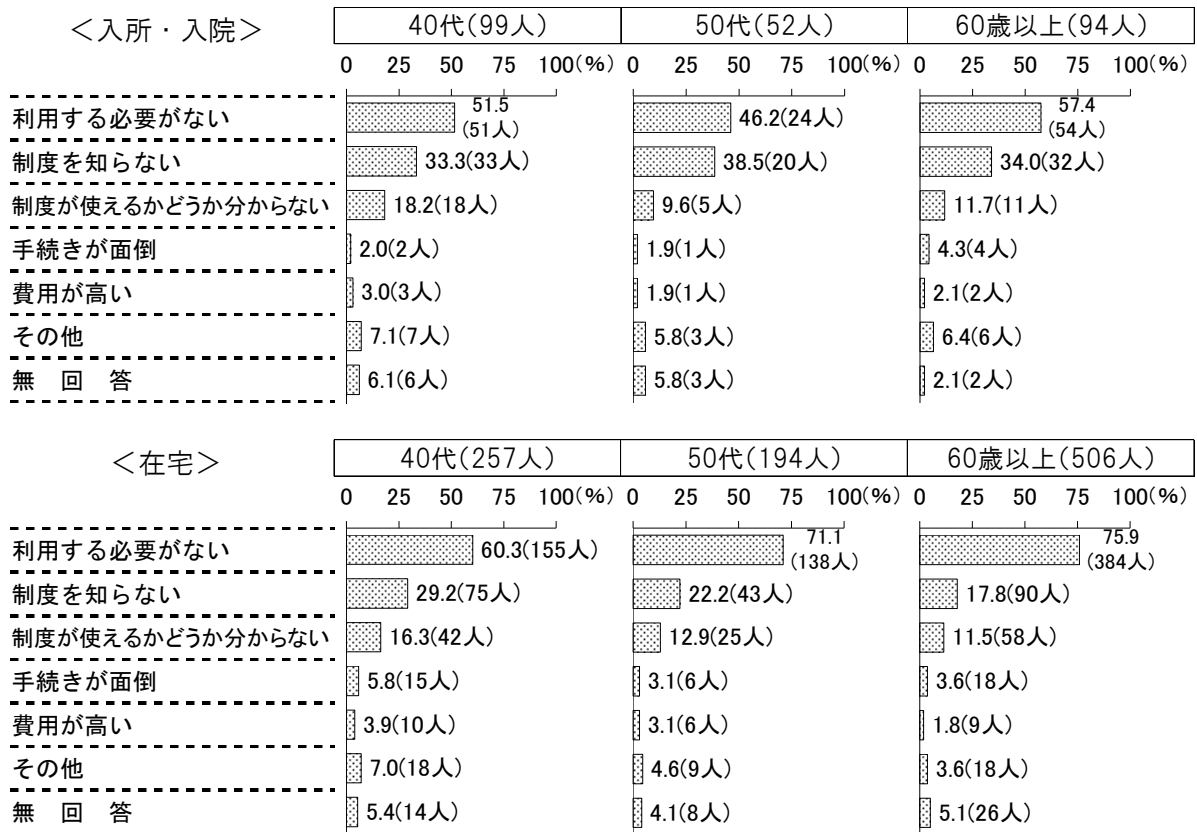
【障害者手帳種別】 大きな傾向の違いはみられない。

【年代・加齢】 大きな傾向の違いはみられない。

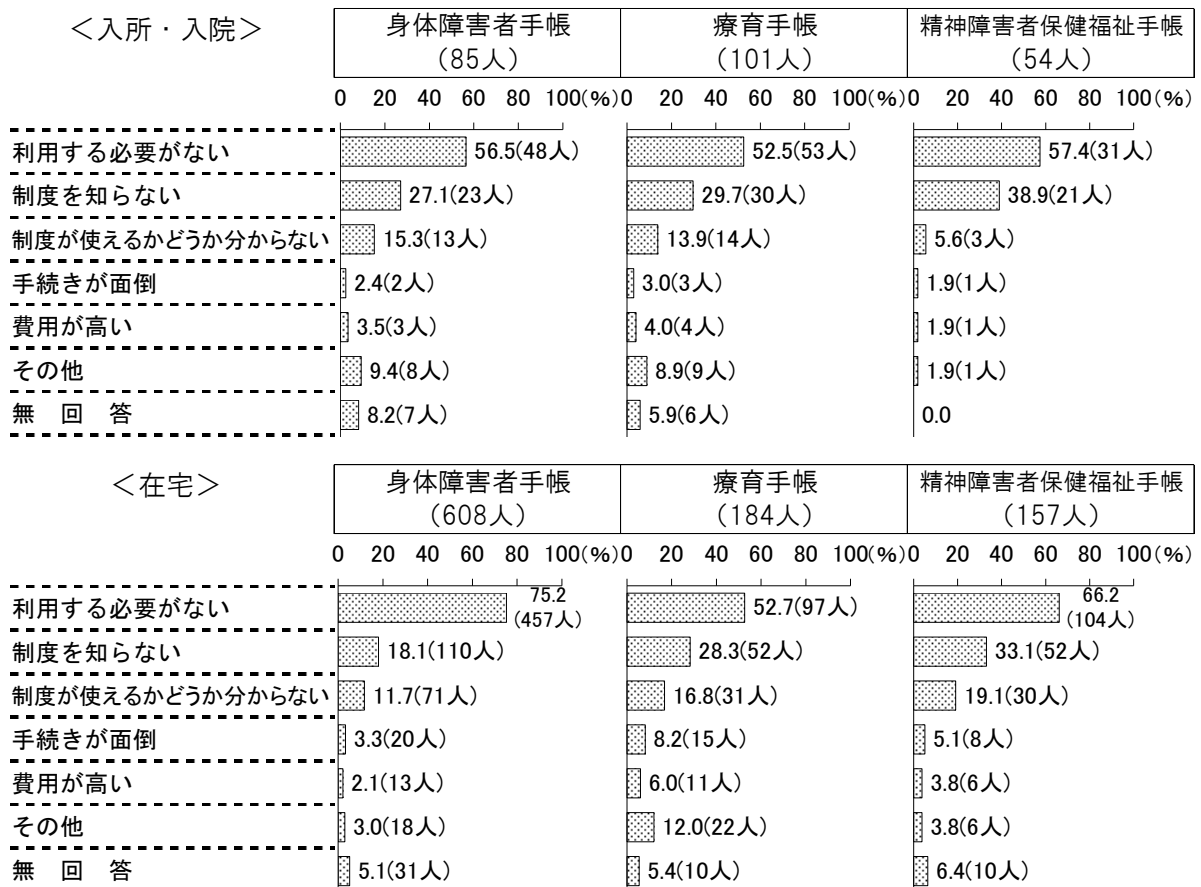
図表6-1-5



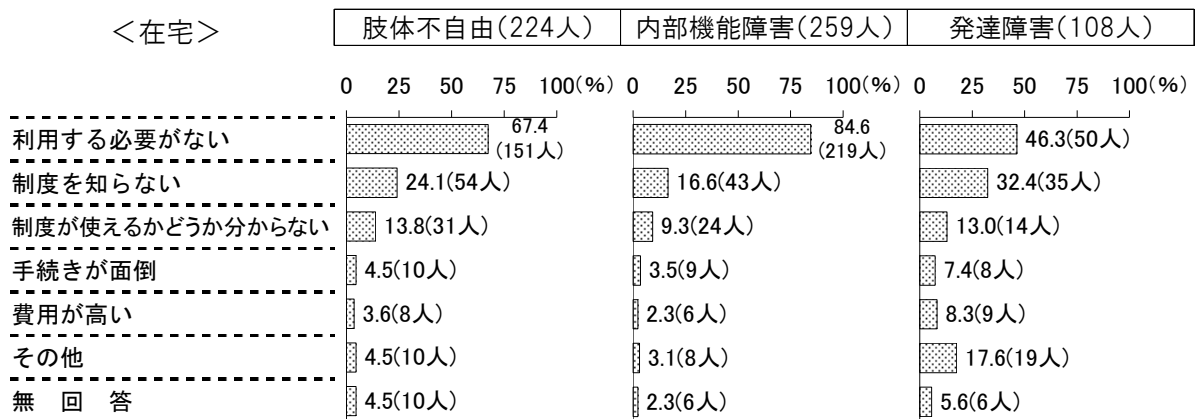
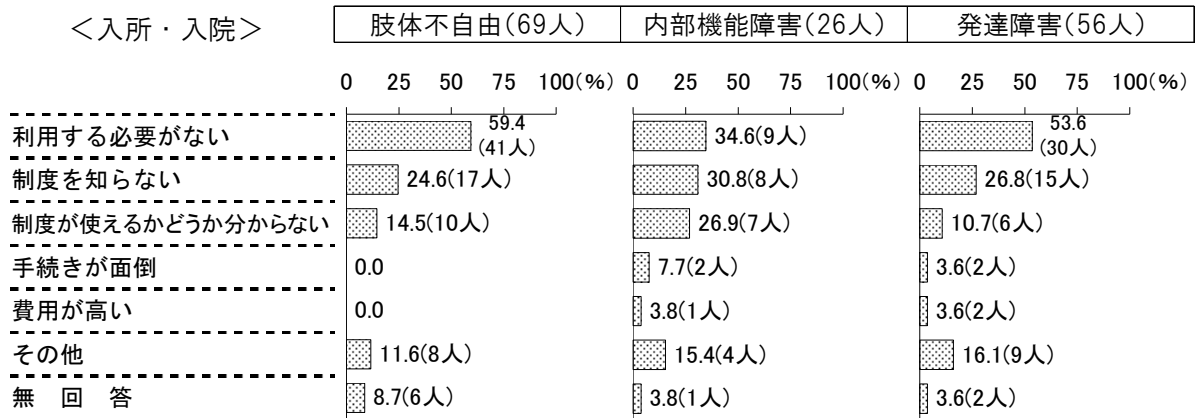
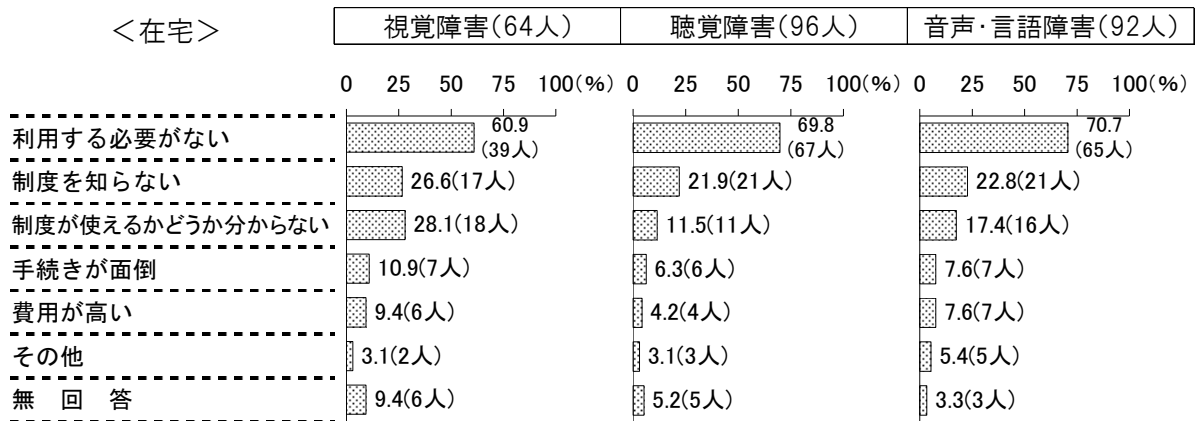
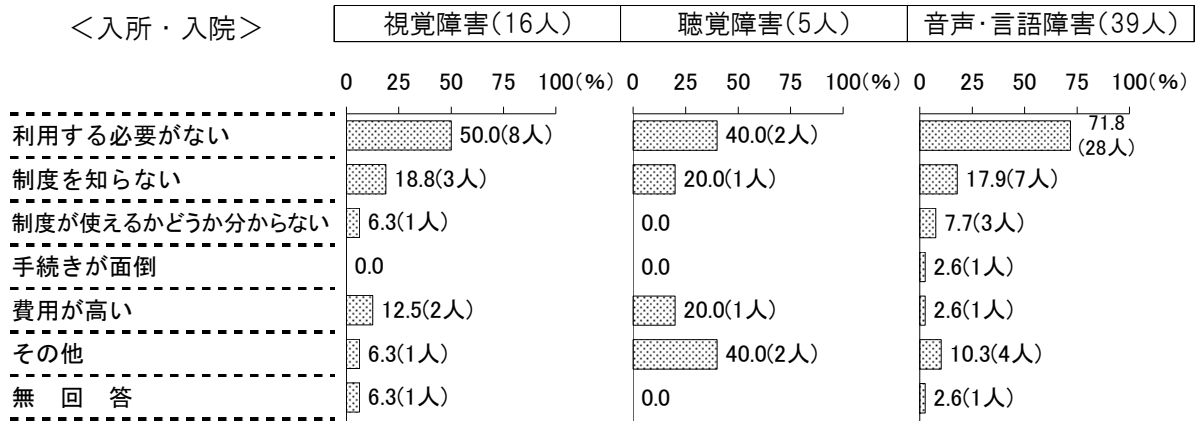
図表6-1-6 日常生活自立支援事業を利用していない理由—年代別



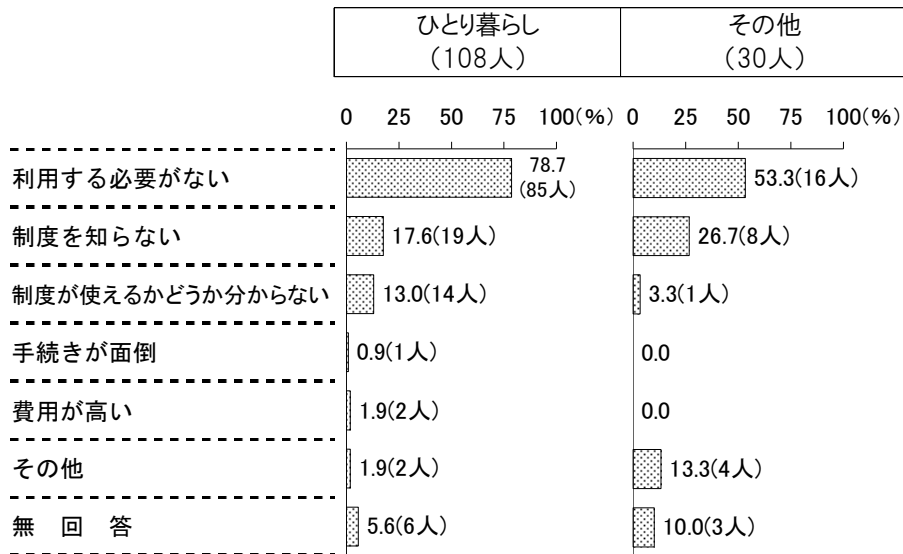
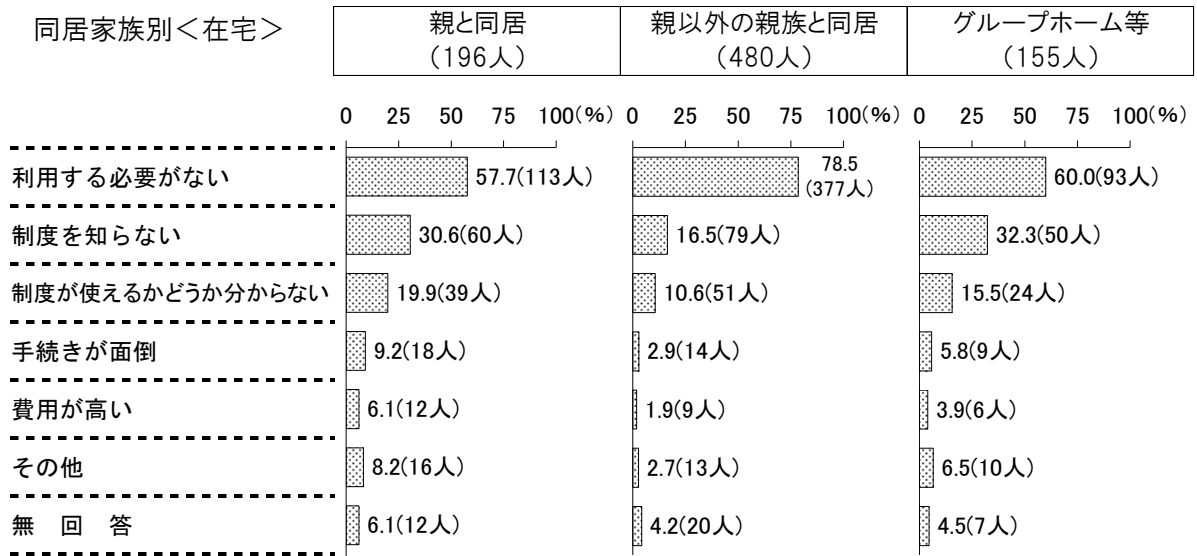
図表6-1-7 日常生活自立支援事業を利用していない理由—障害者手帳種別



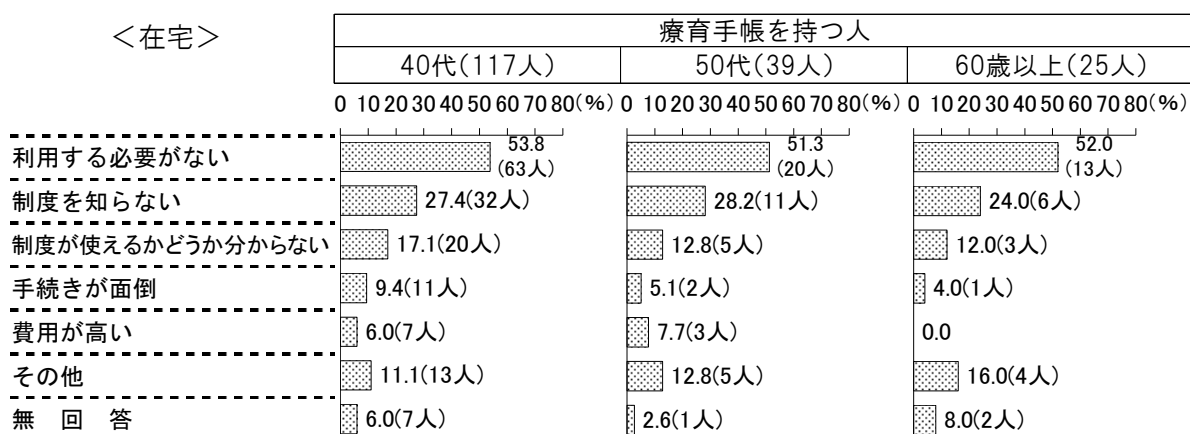
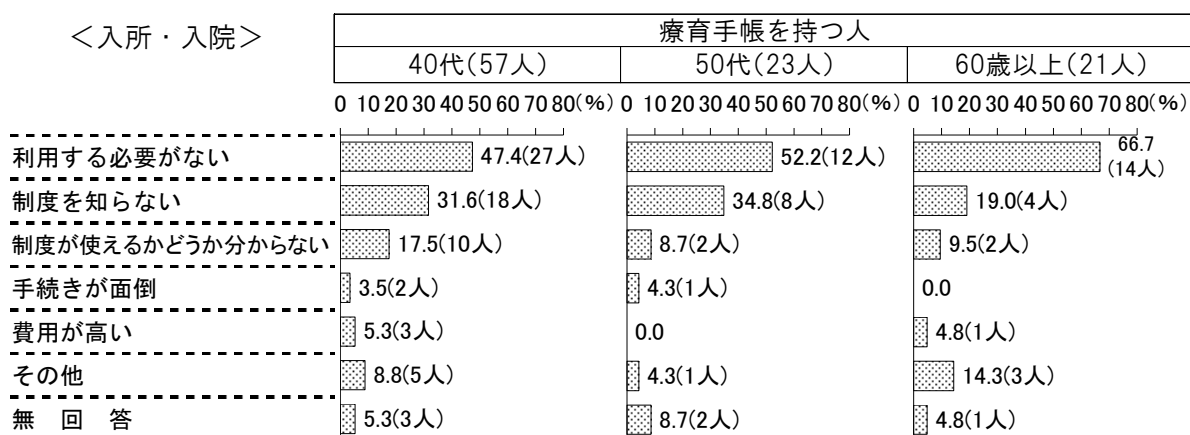
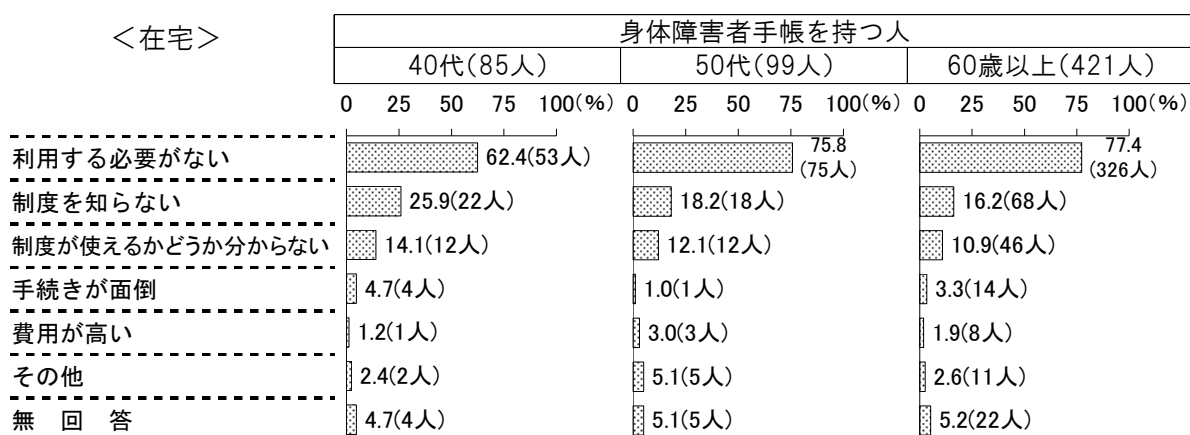
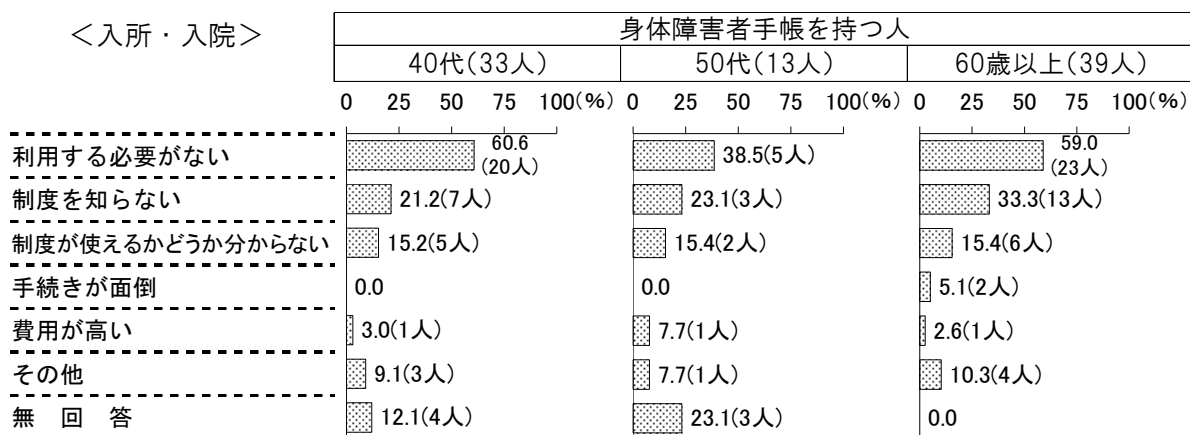
図表6-1-8 日常生活自立支援事業を利用していない理由—障害種別



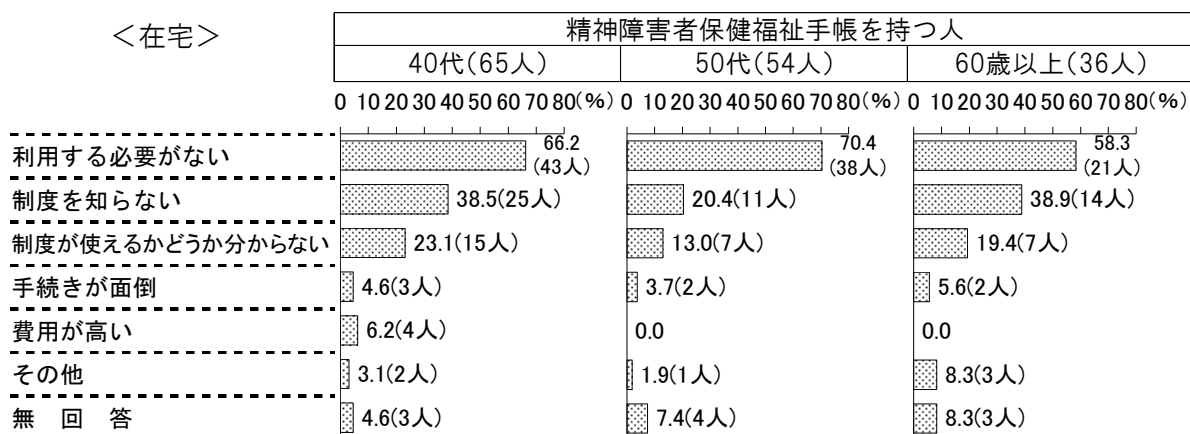
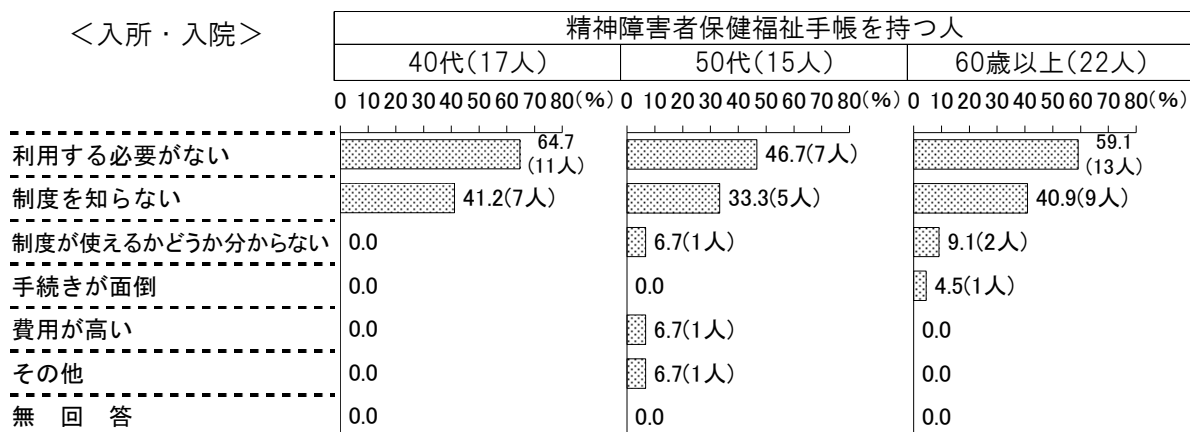
図表6-1-9 日常生活自立支援事業を利用していない理由—同居家族別<在宅>



図表6-1-10 日常生活自立支援事業を利用していない理由—障害者手帳種別・年代別



図表6-1-11 日常生活自立支援事業を利用していない理由－障害者手帳種別・年代別（つづき）



(2) <入所・入院問22><在宅問31> 成年後見制度の利用状況

問. 成年後見制度（※）を利用していますか。あてはまるものに○をしてください。

※ 判断能力が不十分な方々の財産管理や、代理契約などの法律行為を行うことにより、本人を保護・支援する制度。

【概要】

入所・入院している人では、「利用している」が19.3%で、「利用していない」は74.9%となっている。

在宅の人では、「利用している」が5.3%で、「利用していない」は85.6%となっている。

(図表6-2-1)

【障害者手帳種別】

知的障害では、他の障害と比べて「利用している」(入院28.6%、在宅14.7%)の割合が高くなっている。(図表6-2-2)

【年代・加齢】

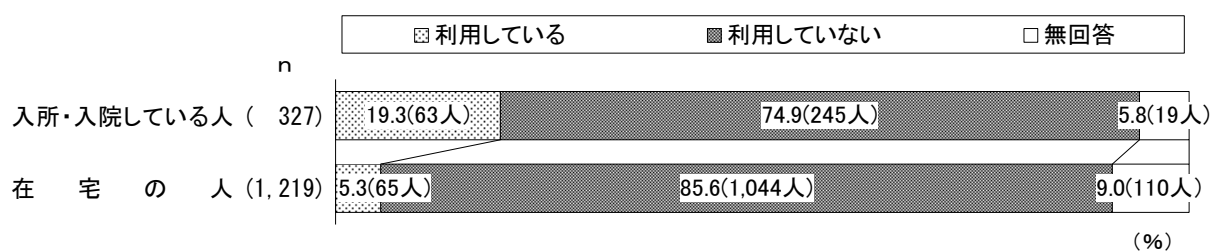
40代で「利用している」(入院28.5%、在宅9.6%)の割合が高くなっている。(図表6-2-2)

【その他】

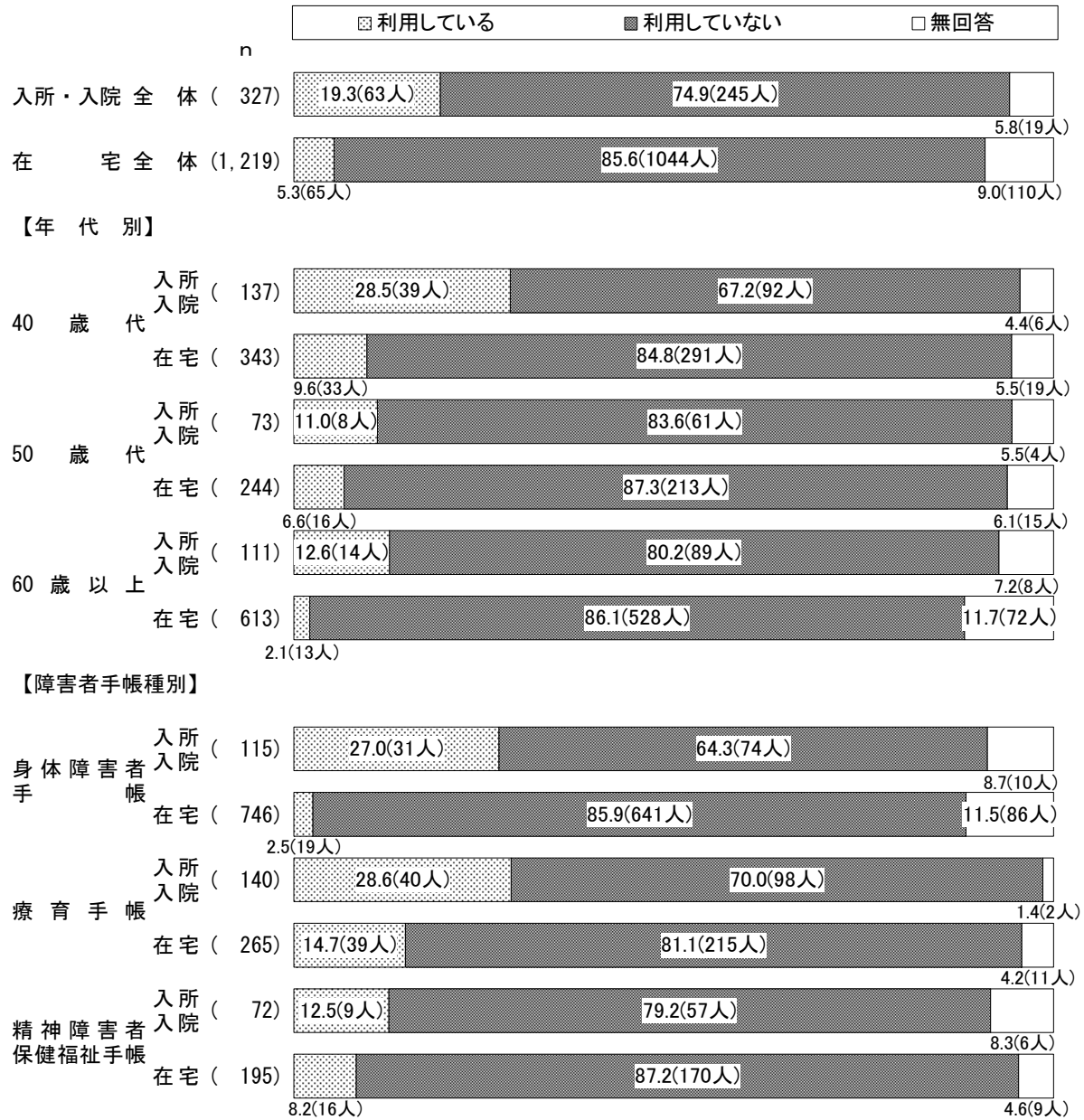
在宅の人では、発達障害で「利用している」が20.5%と他の種別と比べて高くなっている。

(図表6-2-3)

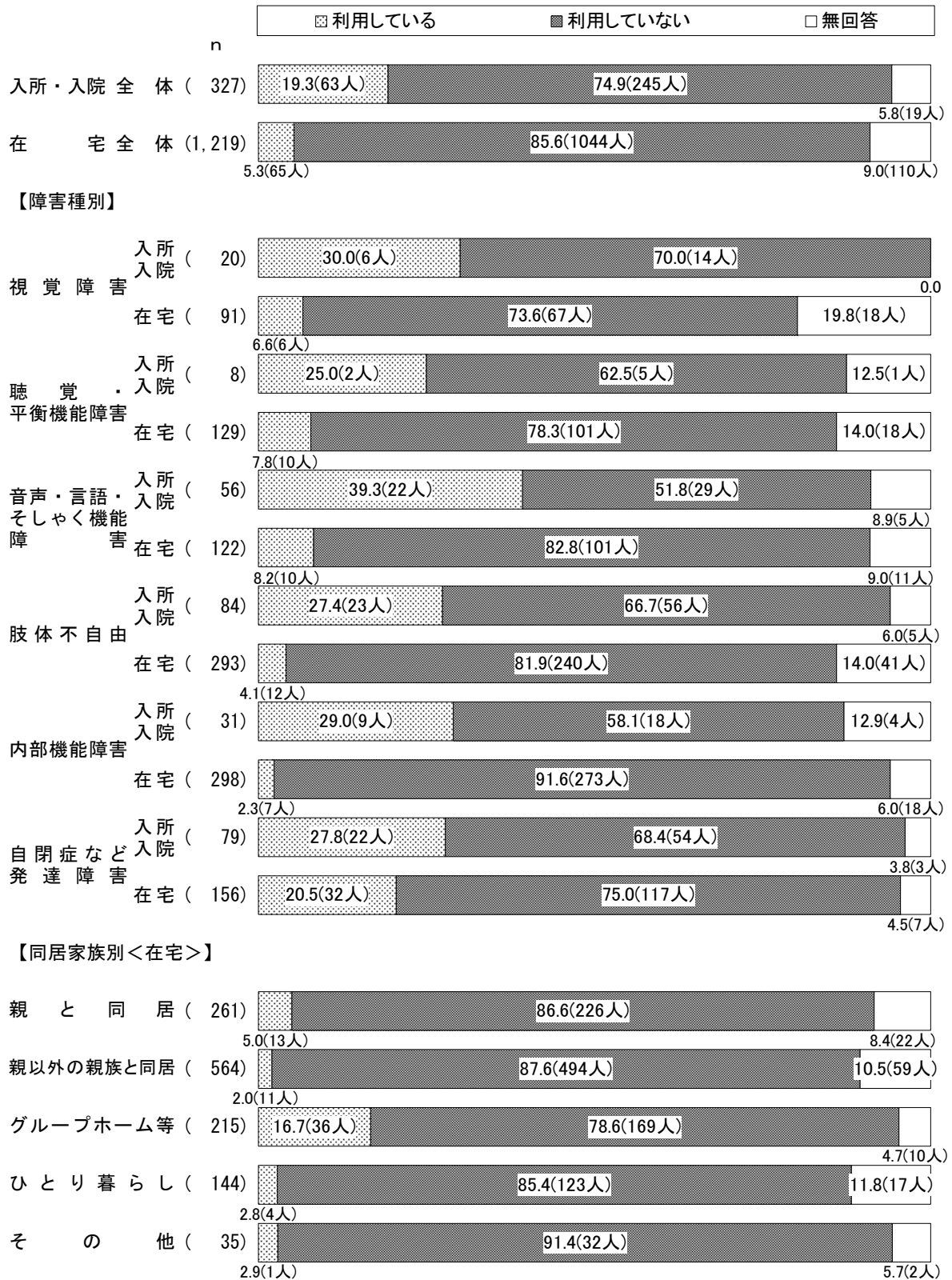
図表6-2-1



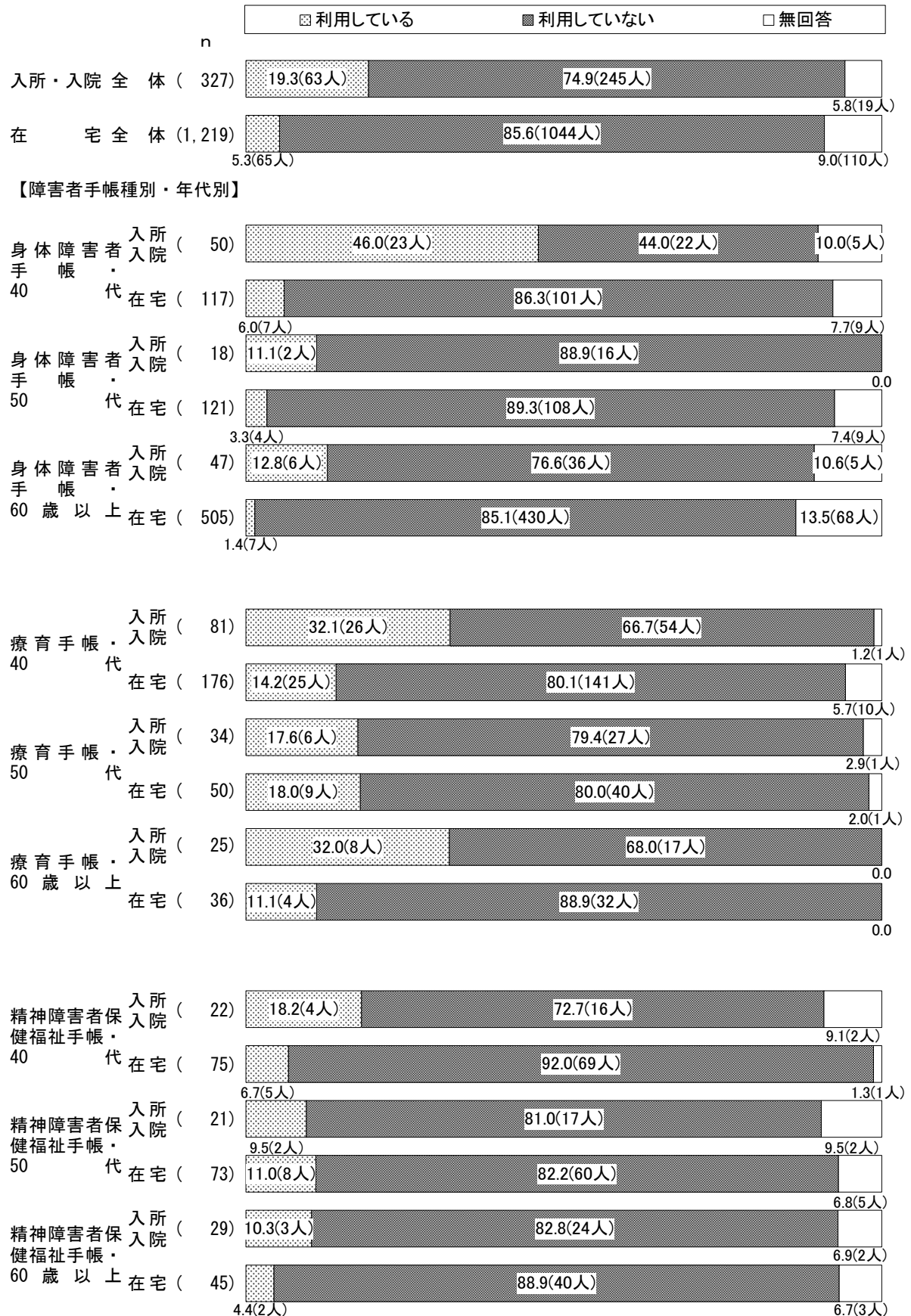
図表6-2-2 成年後見制度の利用状況一年代別、障害者手帳種別



図表6-2-3 成年後見制度の利用状況—障害種別、同居家族別



図表6-2-4 成年後見制度の利用状況—障害者手帳種別・年代別



(2-1) <入所・入院問23><在宅問32> 成年後見制度を利用していない理由

(成年後見制度を「利用していない」と答えた方にお聞きします。)
 問. 成年後見制度を利用していない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をしてください。

【概要】

入所・入院している人では、「利用する必要がない」が57.1%で最も多く、次いで「制度を知らない」(24.9%)、「制度が使えるかどうか分からない」(9.4%)、「手続きが面倒」(8.6%)、「費用が高い」(8.6%)などの順となっている。

在宅の人では、「利用する必要がない」が76.5%で特に多く、次いで「制度を知らない」(16.0%)、「制度が使えるかどうか分からない」(8.3%)、「手続きが面倒」(7.1%)などの順となっている。

(図表6-2-5)

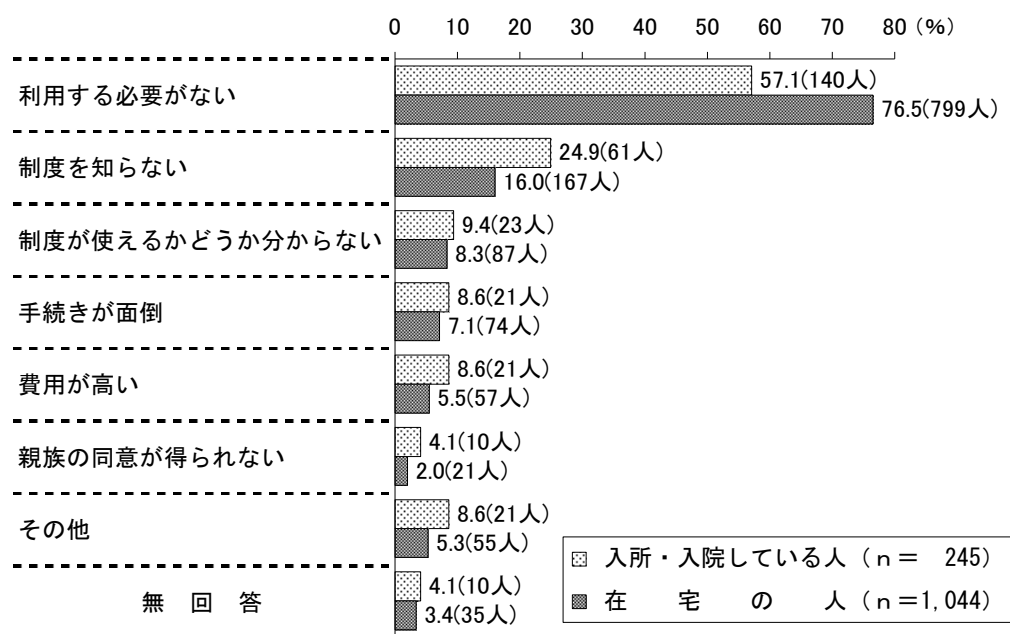
【障害者手帳種別】

知的障害では在宅で「手続きが面倒」(17.7%)、「費用が高い」(15.3%)が多い。精神障害では、「制度を知らない」(入所36.8%、在宅26.5%)が多い。(図表6-2-7)

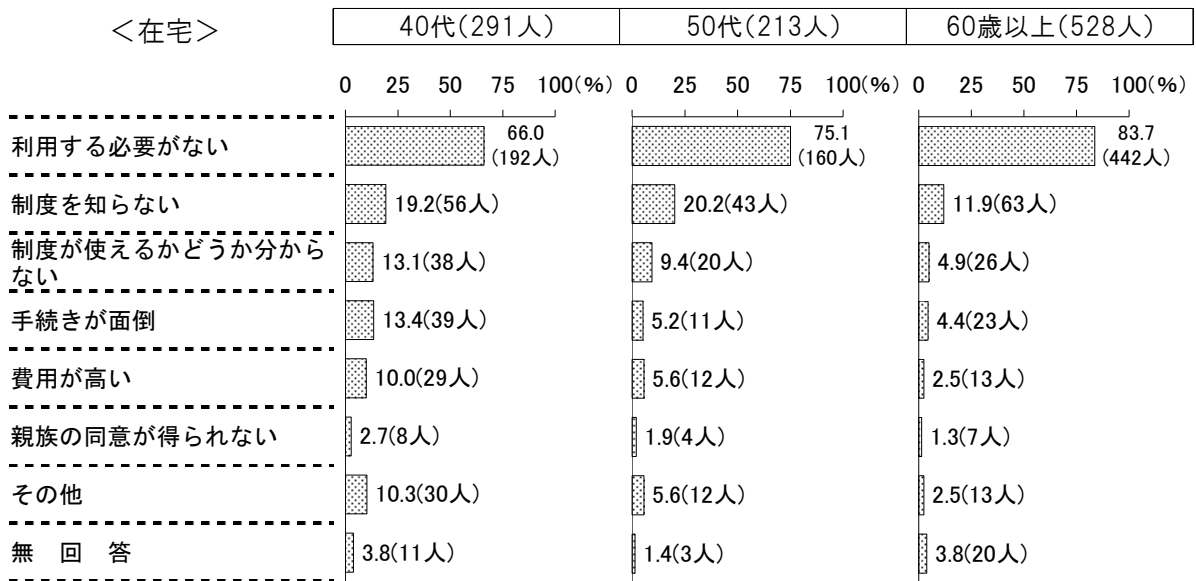
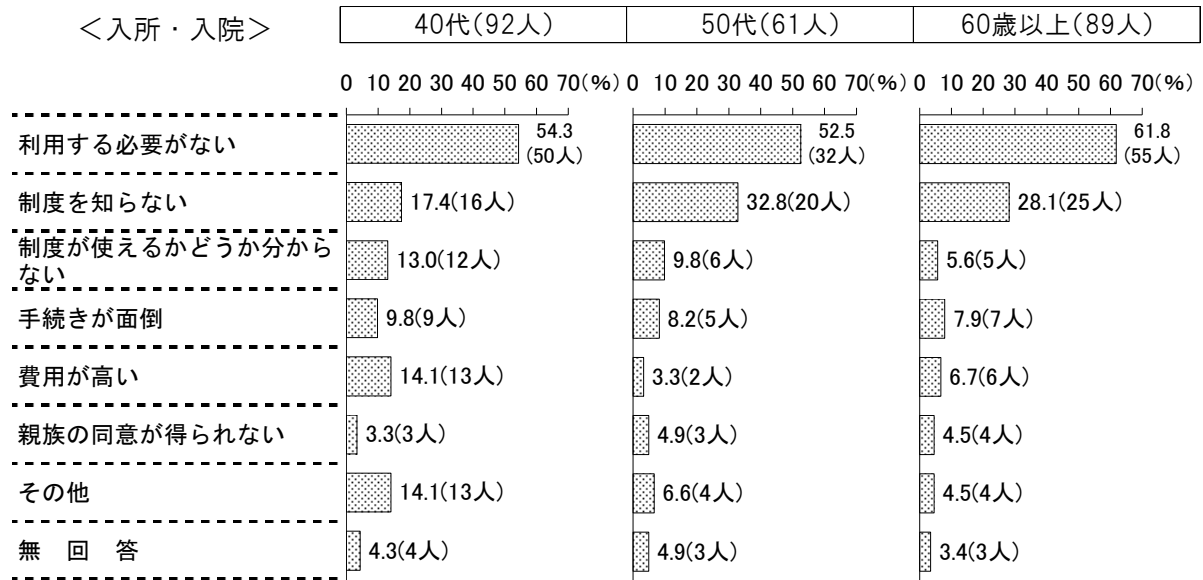
【年代・加齢】

年代が進むにつれ、身体障害・知的障害の在宅で「利用する必要がない」の割合が高くなっている。(図表6-2-11~図表6-2-13)

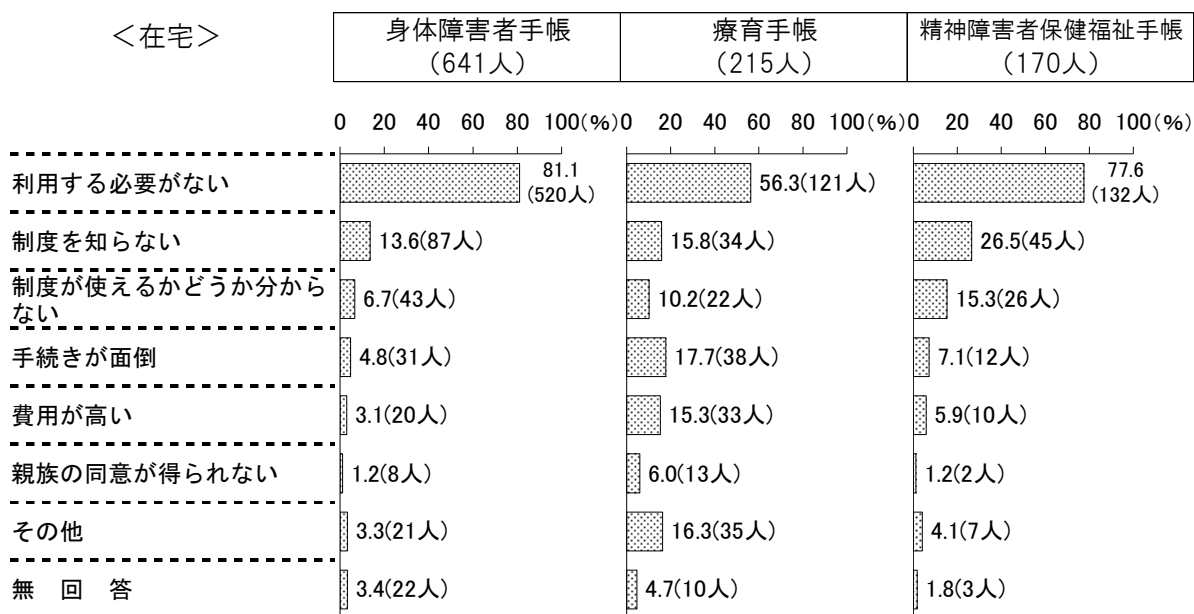
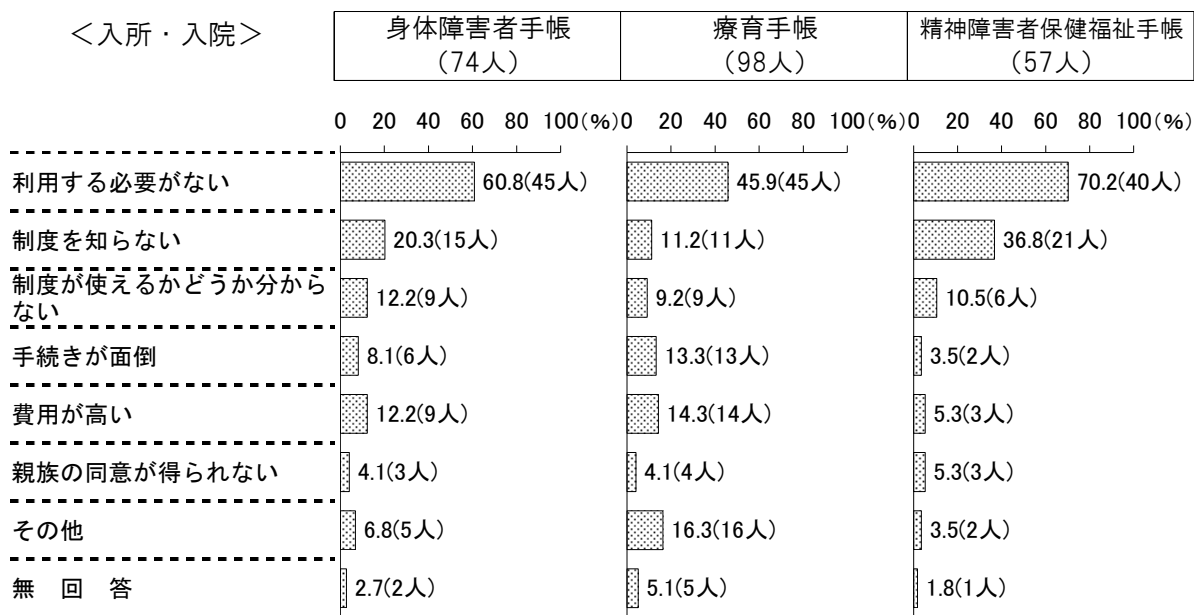
図表6-2-5



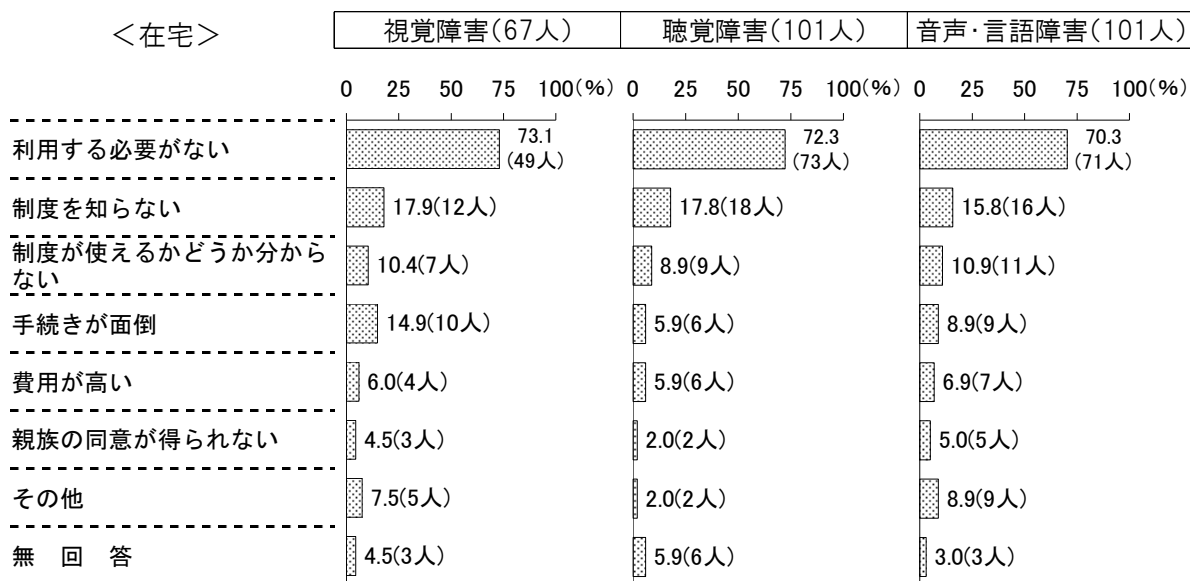
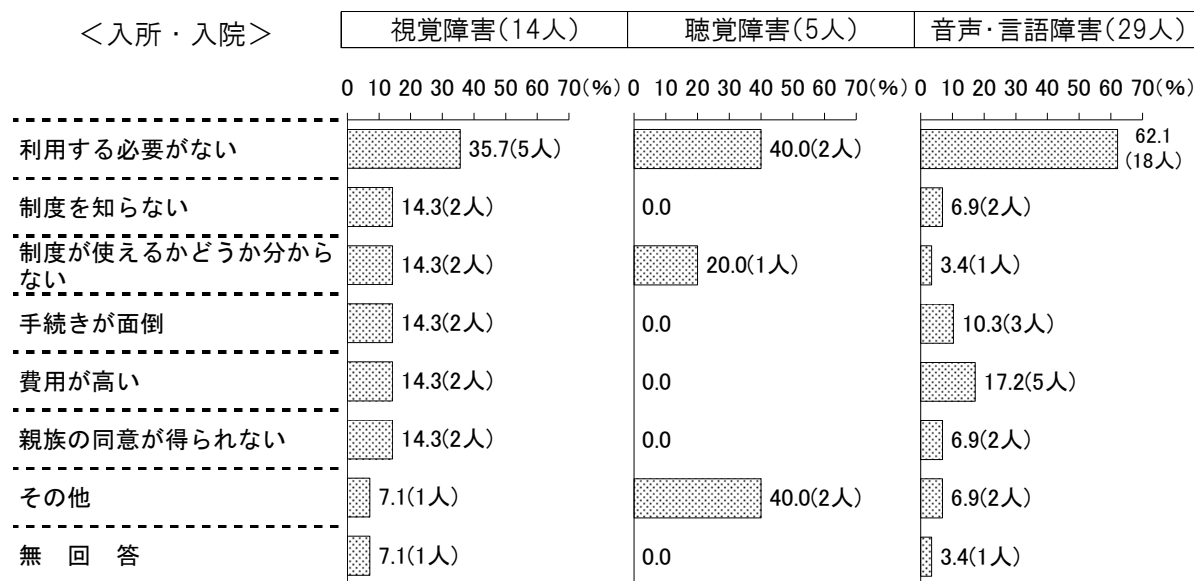
図表6-2-6 成年後見制度を利用していない理由—年代別



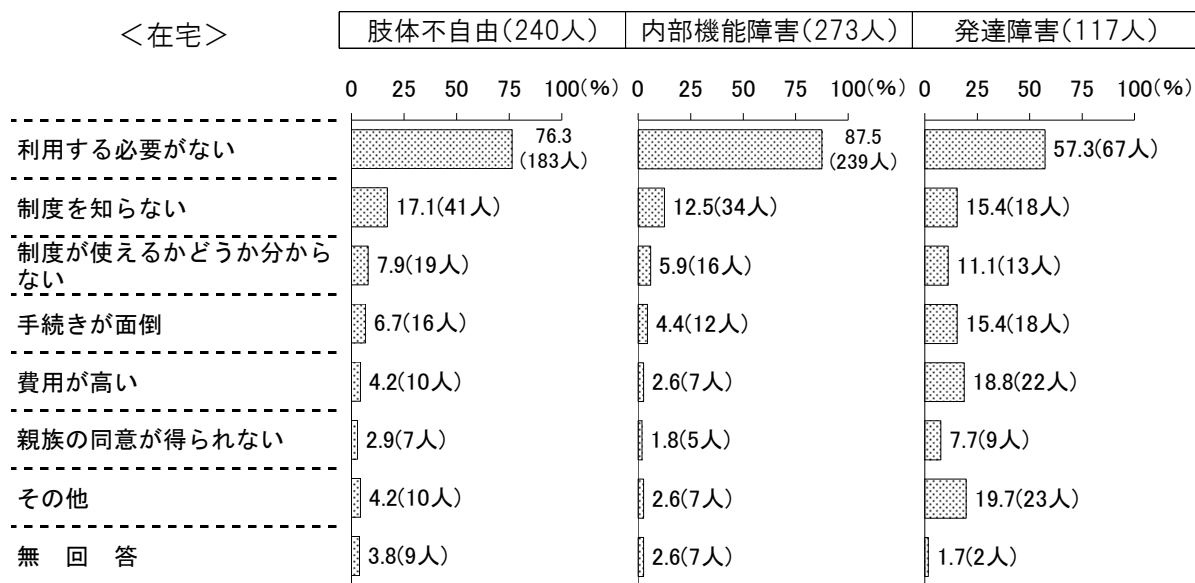
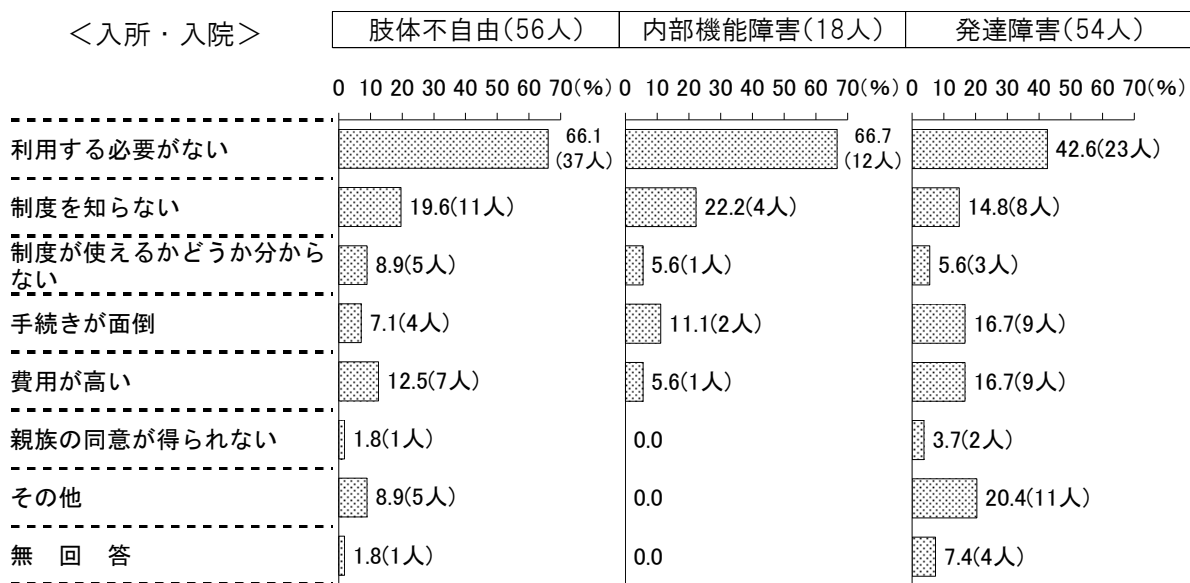
図表6-2-7 成年後見制度を利用していない理由—障害者手帳種別



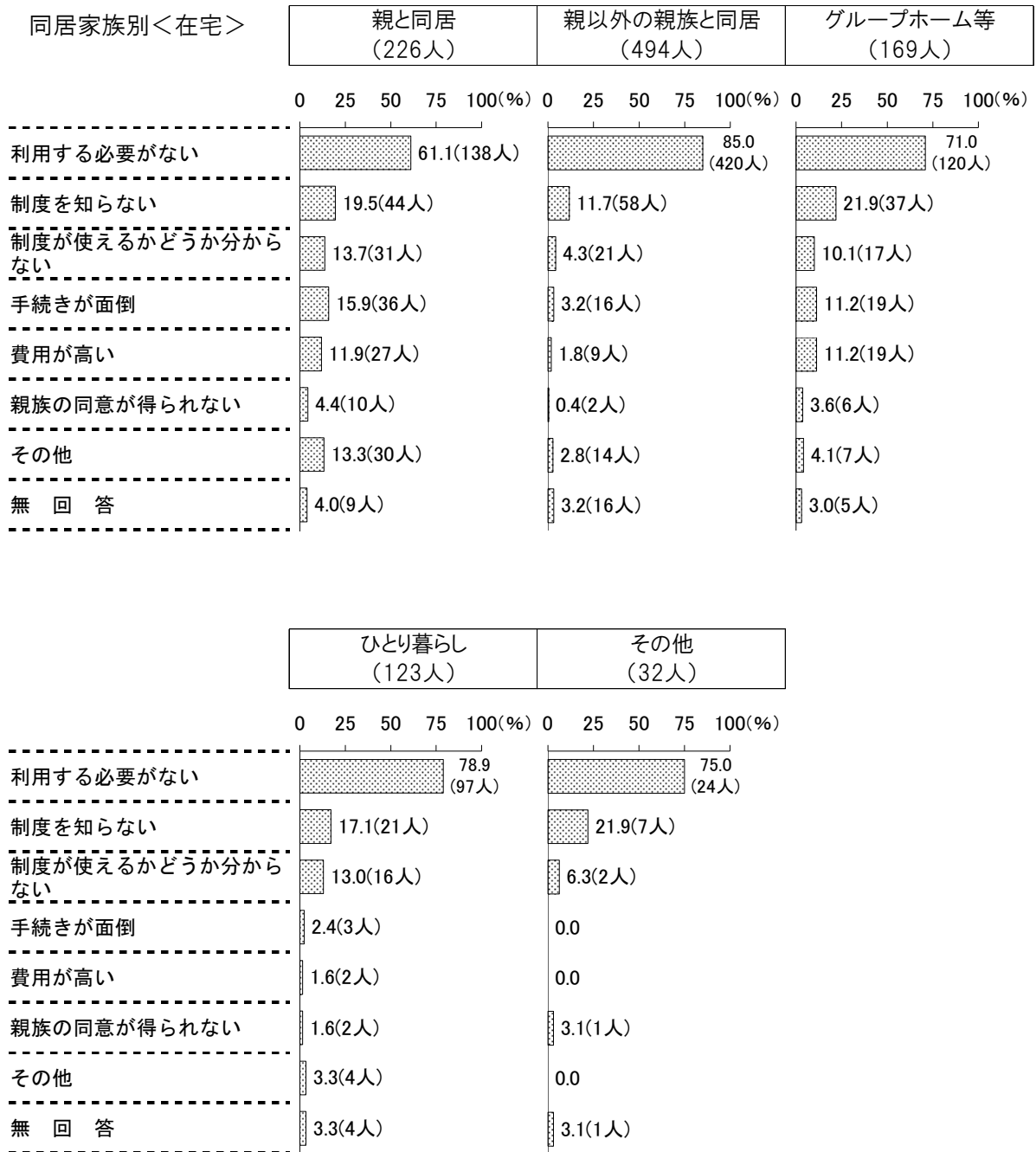
図表 6-2-8 成年後見制度を利用していない理由—障害種別(視覚障害、聴覚障害、音声・言語障害)



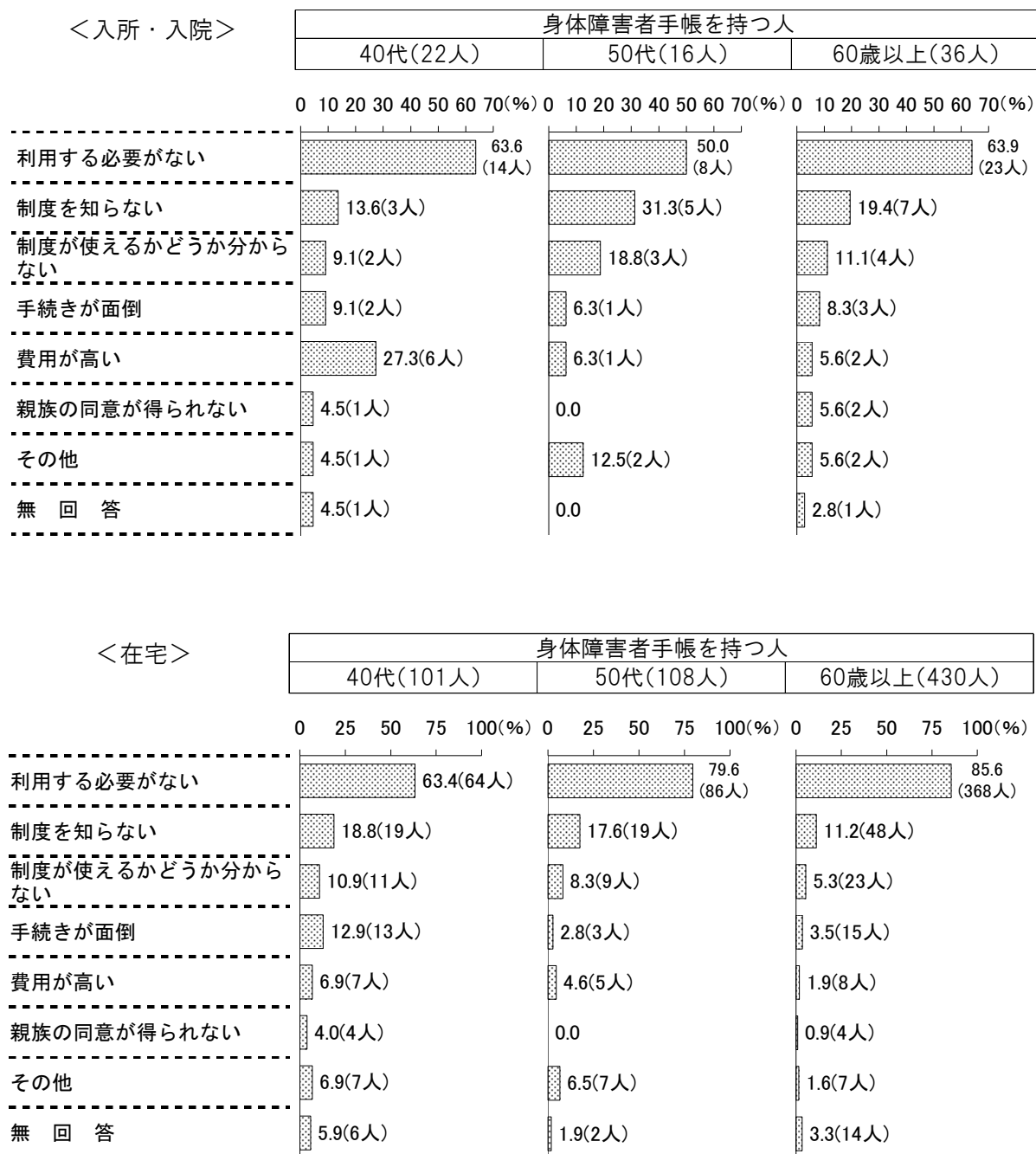
図表 6-2-9 成年後見制度を利用していない理由—障害種別(視覚障害、聴覚障害、音声・言語障害)



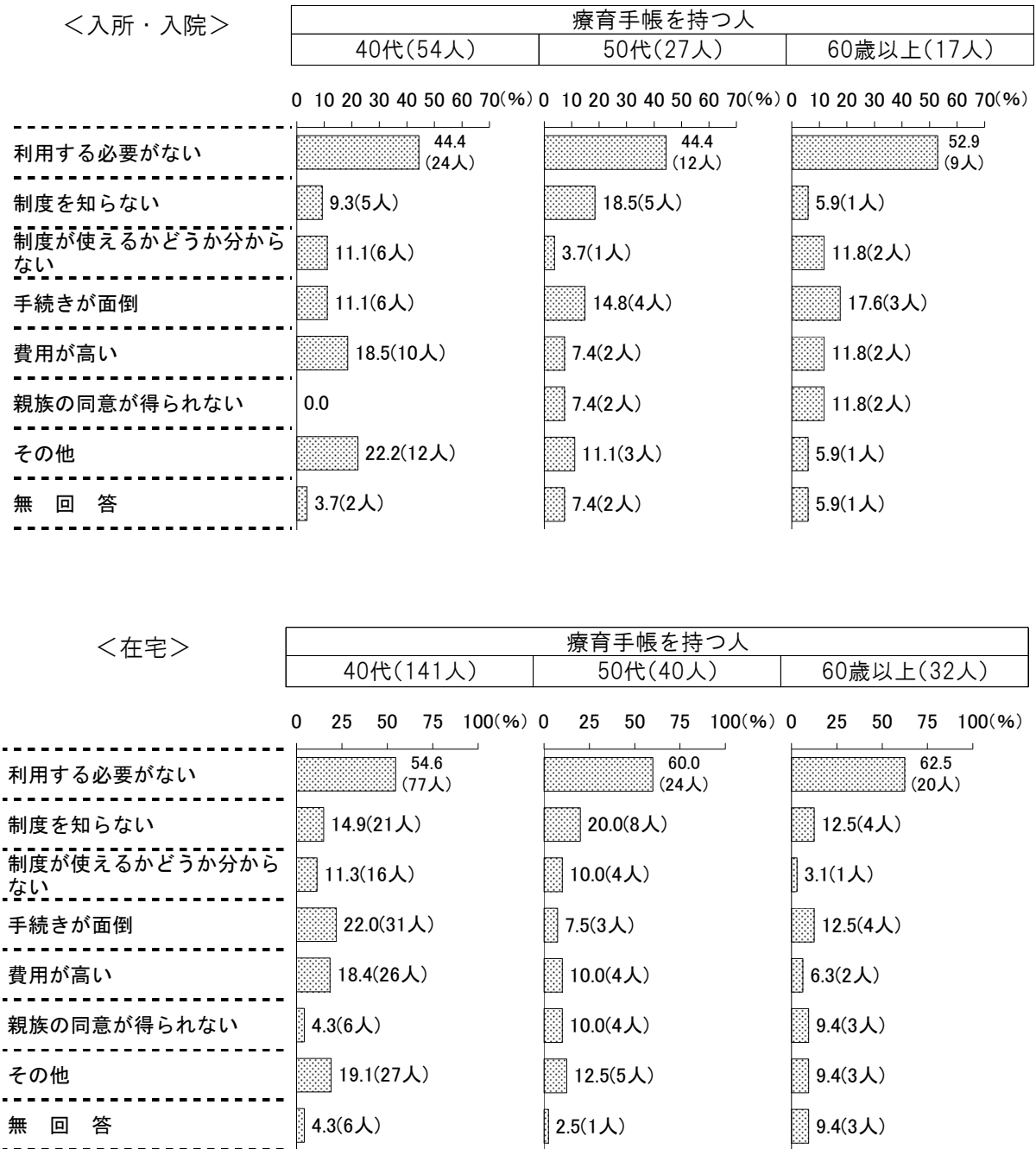
図表6-2-10 成年後見制度を利用していない理由—同居家族別<在宅>



図表6-2-11 成年後見制度を利用していない理由—障害者手帳種別・年代別（身体障害者手帳）



図表6-2-12 成年後見制度を利用していない理由—障害者手帳種別・年代別（療育手帳）



図表 6-2-13 成年後見制度を利用していない理由

— 障害者手帳種別・年代別（精神障害者保健福祉手帳）

